

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701005		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ和楽(にし乃家)		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2132-1		
自己評価作成日	令和2年 2月 5日	評価結果市町村報告日	令和2年 4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心と信頼を軸におき、利用者様が安心して生活をして頂けるように、気配り目配り思いやりを持って支援しております。御家族様との信頼関係を保ち身体の報告は元より、日常の様子などの報告もかかさず行っております。病気の早期発見に努め受診・往診の介助も行なっております。利用者様1人ひとりに応じた支援を行う為、職員間での話し合いはその都度おこなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複数の事業所を持つ法人敷地内にある事業所では、入居者それぞれの生活が穏やかにそして和やかに営まれています。入居者の中には以前からの趣味を楽しむ等、それぞれの時間を過ごす様子が聞かれました。事業所では以前から居室は自宅であり、入居者一人ひとりには「居室で関わっている一人世帯」との考えが浸透していることから、それぞれの生活を大切にしている姿勢が見えました。今年はコンプライアンスについて考える機会を持ち、これまでの業務について見直しを行い、業務改善にも取組まれました。入居者・家族が事業所を気に入り「最期まで」と望まれる声も多く聞かれ、家族をはじめとする関係者みなで入居者を支える取組がみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員1人ひとりが事業所理念を共有し、利用者個人を尊重しその為の選択の機会と自由を提供している	理念に基づいた事業所の年間目標を設定し、日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆さんとの交流の場を設け外部より招き敬老会・音楽会・祭りの時は地区の子供達のおどりなどを通し交流をしている	事業所では婦人会やボランティアグループ、祭りの披露等、地域からの来訪を歓迎している。来訪は恒例のものとなっており、入居者との関わりも深いものとなってきた。ボランティア来所の際は職員も共に時間を過ごし地域と入居者の繋がりの継続に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験学習・福祉体験学習、またはフレッシュミズの訪問などを通し認知症への理解・対応を促しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、事業所の取り組みを報告し各方面からの意見や評価を受けて反省や話し合いを行いサービス向上に活かしています	運営推進会議には地域・行政・家族代表が参加し、事業所だけでなく町の高齢者と関わりを持つ法人全体の様子も伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の町民福祉課や社協などと連携し町の緊急対応品、備蓄の協力にも取り組んでいます	運営推進会議を利用し事業所の状況や日々の入居者の様子を伝えている。事業所は町の緊急対応品の備蓄も行っており、地域の安全にも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については知識の普及に努めている 夜間安全のため施錠する以外は施錠を行わず自由に出入りできるようにしております	毎月の職員全体会議を利用し身体拘束をしないケアについて学びと振り返りを行っている。勉強会では具体例により職員の意見を出し合い理解の共有に繋げている。今年度はコンプライアンスに関する担当を決め、話し合いの中で身体拘束について考える機会を持った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料の回覧、全体会議などにより、高齢者虐待の内容を把握し、職員1人ひとりが注意しながら毎日のケアを行うことで虐待の防止につなげています		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修会議や他の研修への参加により知識を得るとともに必要と思われる利用者には積極的に利用をすすめ関係者と検討し活用支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に同席して頂き、施設長自らが良く話を聞きながら十分な説明を行いながら理解と納得を得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員会を通し、家族代表や役場職員、地域代表の方々に出席して頂き、意見や要望を聞き運営に活かすよう努めています	家族には入居者の日々の様子や通院状況等を運営者自らまめに報告している。日々の面会や家族会でも職員からも声を掛け意見をj得ている。家族や入居者の意見は職員で共有している。運営者も家族との関わりが多いことから運営への反映にも繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼やホーム長会議、毎月1回の全体研修会議の際に職員の意見や提案を取り上げて、運営に反映させている	運営者は日頃の業務で管理者や職員との関わりを持っているため職員の意見や提案を聞く機会を持っている。職員会議は職員それぞれの意見を事業所でまとめ、さらに全体で話合っており、意見を出しやすい体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入により職員相互での仕事内容も充実し職員ひとりひとりがやる気と学ぶ姿勢がみえてきた。向上心も出てきている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回テーマを決めて全体会議をおこなって、職員の知識や能力の向上に努めている。外部への研修にも積極的に派遣している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と話す機会はあまりないので今後交流する機会を増やしたい		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を頭に入れ、本人に合わせた声かけを行い馴染みの関係を作る事で安心感を持って頂く		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や思いを適確に受け止めるよう会話を多く持ち、いつでも連絡がとりあえるようにする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な情報を本人や家族。関係機関より収集し介護計画を立てることで本人や家族が必要としているサービスを展開している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	談話やテレビをみたりして、一人ひとりの生活に寄り添った関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に関わる情報を小まめに家族に伝えて、現在の状態を説明、納得してもらい家族に理解してもらった上で利用者との関わりをもってもらおうようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望をかなえてあげられるように、施設の電話を使えるように、また思い出の場所・馴染みの店などにも行ける体制をとっている	殆どの入居者が地域からの入居であるため、地域からの来訪も馴染みの関係である。家族との関わりも大切にしており家族の面会も継続して支援しており、友人の面会も見られる。以前は定期的に帰宅する入居者がいたため支援していた様子も聞かれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話ができるような場面のセッティングや声かけにより、お互いに気兼ねなく生活できる雰囲気作りに気をくばるこまっつ		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った時にはいつでも相談するように伝え、再度の支援につなげられる様に関係を維持していく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を把握し、意志疎通が困難な利用者については、今までの生活歴や好み、わずかな表情や働きから本人の思いを汲み取るように努めている	運営者・職員ともに日々の生活の中で入居者と触れ合い会話の時間を多く持ち、意向の把握に努めている。絵画や貼り絵等以前からの趣味を継続している入居者もいる。買い物希望があれば職員同行で近隣の店舗へ出掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や環境等が記載された情報ファイルをもちいて不明な点は本人または家族に聞き取りを行い把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画の作成・更新時に大きな変化があった時には、担当職員がアセスメントを作成し、常に現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、本人・家族の希望や意向を取り入れ、月1回のモニタリングでアイデアを出し合い現状に即した計画になっている	毎月のモニタリングは職員が集まり意見を出し合っている。入居者の状況や意向、家族の意見を反映し、関係機関や医療機関の意見も取り入れ、入居者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には各項目毎の達成度を記載しできなかった場合は、理由を記載して見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できないではなく、どうすればできるのかと視点をかえて考えることで、より柔軟に対応できるように努めている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の馴染みの店や長く診て頂いた病院など、出来る限り継続して利用し、安心して生活できるようにつとめている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は継続できるように、また本人や家族の希望により決めている。体調不良・本人・家族の希望時には受診し、往診により体調管理できている	入居前からのかかりつけ医の受診を継続して支援している。定期的な受診は往診も多く、通院が必要な専門医受診等は職員による介助を行っている。地元のかかりつけ医も複数あり、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師に相談できる体制をとっており、看護師から介護職員への受診の指示が行え適切な対応ができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、定期的に面会に行き病院の地域連携室とも連絡をとり、情報を得それを基に医師との関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に入った場合、本人や家族と話し合って意向を把握すると共に施設でできる事を説明し理解してもらい医師と家族の話し合いのもと関係機関と連携し支援をおこなっている	入居時に事業所の体制及び方針等について説明している。実施にその時を迎える際には関係機関とも連携をとり、事業所全体で支援している。看取りまでの対応は家族の希望も多く、また家族の協力も大きい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修会議で急変や事故発生時の対応の仕方の訓練を行い。講義で知識を得て緊急時にはマニュアルに沿った対応ができる体制をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災消防訓練で消防署の指導を受けながら避難訓練や消火訓練をおこなっている	職員・入居者も参加した火災時の訓練を定期的に行っており、自然災害については職員会議にて手順の確認を行った。事業所は町の避難所になっており、災害物資貯蔵庫も敷地内にある。避難訓練については広報誌にも掲載し関係機関にも様子を伝えている。	

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間目標として、ぬくもりと安心できるお世話ができるように、やさしい気持ちをもつことが心がけ、ゆっくり丁寧な介護ができるよう職員で対応している	入居者の生活の中で、トイレや入浴等、プライバシーの確保が必要と考えられる時には職員間の共通理解のもと支援している。同性介助を希望される場合は対応している。事業所では「入居者は一人世帯としての関わりを持つ」との考えが浸透しており、現状心配な事例は見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に表情や動きの変化に気づけるよう、言葉はでなくても本人の希望や思っていることが汲み取れる場面がつかれるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側での都合で、ちょっと待って下さいは言わず、すぐ行きますを第一に利用者優先であるように努める		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・洗顔用のタオルの準備や整髪剤を使用して身だしなみに気をつけている。定期的に散髪も行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が食べれないもの嫌いなものに対しては代替品を提供し、好みのある場合は家族に相談して購入している。かたづけのお手伝いも声かけして一緒におこなっています	食事は隣接事業所からの配食ではあるが、準備には入居者の関わりも見られる。食事時間は職員も同席し会話も弾む。誕生日や季節行事には折りや重箱を使い見た目の楽しみも工夫されている。職員による検食では食事に対する意見も良く出ており、反映もなされている。	職員による検食は行われているとの事でしたが、入居者の一番の楽しみである食について、要望や意見を聞き取り組みをお願いします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握・記録を行い。必要があれば水分強化したり、水分制限をしたりと一人ひとりの状態にあわせている。栄養面での不足分は栄養補助食品を利用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、すべての利用者に声掛けして口腔ケアを実施している自分ではできない方には介助をおこない必要に応じてブラシを選択しています。うがいができない人に対しては、ガーゼでのふきとりをおこない。状態に合わせたケアをおこなっている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入で利用者の排泄パターンを把握しその人にあったトイレ誘導で排泄できるようにしている。段階的にオムツやパットの種類を選び状態に応じたものを使用している	一人ひとりの記録を基に昼間・夜間とも出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレの使用もあるが、安易にオムツへの移行は行わない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が便秘予防のための知識を身につける様に努め、牛乳の提供や運動の声掛け、腹部のマッサージ等を行っている。また、かかりつけ医と連携する事で下剤を上手に利用し、排便のコントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定して実施できるようにしているが時間帯の考慮・体調不良時は振替日を設けている	週2～3回を基本とし、当日の体調や気分等により支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録や申し送りで職員間の情報交換を行い、利用者の休息や睡眠パターンを把握・共有している。また部屋を整頓し、寝具を定期的に洗濯したり干したりして、気持ちの良い睡眠がとれるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報はファイリングし、いつでも見れる様にしている。また看護師や薬局・医師との連携に努め、処方薬の変更があれば記録や申し送りを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の会話や家族からの情報から、好物や趣味を把握し、好きなものを食べたり好む事を出来るように支援している。またそれまでの生活歴を考慮し生活リハビリとして、その人が出来る役割をしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や散歩等、声掛けをおこない本人が希望すれば職員の支援で出かけられる体制がとれている	一日の生活の流れも示されており、個別機能訓練の他、天候が良い時には苑外への散歩も予定されている。買い物等希望があれば個々に近隣店舗までの散歩も見られる。窓からは阿蘇の雄大な景色も臨むことが出来る。	

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力を考慮したうえで可能な利用者には、規定額内でお金を所持して貰っている。金庫で管理している預かり金も本人や家族の意向により使用し、明細は毎月キーパーソンに送付し明確にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話したいとの希望があれば、施設の電話にてかけてもらっている。利用者あての電話や手紙は既定の手順にて取り次いでいる。読み書きができない利用者には代読代筆を行い交流支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やトイレの臭いに気をくばり換気を常に行っている。寒さ暑さを感じないよう温度調節に気をくばり季節のものを身近で感じてもらえるよう工夫している	事業所内は明るく温かい環境で、温湿度の管理が出来る構造で建築されている。窓からは季節ごとの阿蘇の景色を眺めることができる。日中は居室で趣味を楽しむ方、リビングで過ごす方、ソファでくつろぐ方と様々な様子が見られ、穏やかな時間が流れている。リビングは除菌消臭・花粉専用噴霧器を使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間である居間のソファや食堂の椅子は、利用者がいつでも自由に座れるようになり、一人で新聞を読んだり、何人かで談話をしたりして、本人の思いのまま過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には本人や家族の希望に沿って、自宅で使っていたものや好みの物など、好きなものを持ち込んでもらっており、自分の家と変わりなく過ごせるように雰囲気作りをしている	収納が備えられた居室には自宅から持ち込まれた使い慣れた生活用品が持ち込まれている。	それぞれの生活用品が持ち込まれていますが、ユニットによっては趣味等、日々の生活を思い起こすことができるような居室作りの工夫に期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーであり、廊下やトイレ、浴室などには手すりを設置している。また廊下や食堂も安全に離合できる様、十分な広さを取っており、安全に自由に行動できるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701005		
法人名			
事業所名	あそ和楽(あずま家)		
所在地			
自己評価作成日	令和2年 2月 5日	評価結果市町村報告日	令和2年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の共同生活の中で、その人らしく楽しい生活が出来るよう支援している。また、利用者個人を尊重し、心身機能の維持や向上が図れるよう実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中高生を福祉体験実習として受け入れるほか、地域の祭りでは子供会の踊りを披露してもらっている。また、施設内の催しに地域の方々を招待し参加してもらうなどして交流を図っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の福祉体験学習やJA婦人会の訪問等を通して、地域の方々へ認知症の理解を促している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月おきに運営推進会議を実施し、施設内の取り組みを報告するほか、各方面の参加者からの意見や評価を受けて、反省や話し合いを行う事により、今後のサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括・町社協・町役場と日頃から連絡を取り合い、協力関係を築く様に取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修会議で身体拘束について取り上げ、全職員への知識の普及に努めるほか、不定期に開催しているコンプライアンス検討会議でも施設内での拘束事案が無いかを報告・検討している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修会議や資料の回覧などによって、具体的な高齢者虐待の内容を職員全員が理解・把握し、自覚を持って日々のケアを行う事により、虐待を見過ごさず防止できるように努めている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修会議や外部研修への参加によって権利擁護制度の知識を得ると共に、必要と思われる利用者には、関係者とよく話し合い検討したうえで、制度を活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事については、管理者自身が利用者や家族と対面し、不安や疑問を尋ねる等してよく話し合ったうえで十分な説明を行い、理解や納得を得られるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見・要望があった際には管理者自身が対応し、その内容を職員や関係者に報告すると共に運営に反映させている。また家族会を不定期に開催し、家族の意見の集約に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、全体研修会議や業務後の報告会議、施設内の巡視等の際に、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場を目指して、平成30年度から人事考課制度を導入している。また各種手当の拡充に努め、努力が結果につながる環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を各々のスキルに応じた内容の外部研修に派遣し、参加機会を確保しているほか、全体研修会議では毎回異なるテーマの研修を行い、全職員の知識や能力の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に、同業者と交流しネットワークを作る機会確保している。また全体研修会議の中で外部の講師を招いて勉強会を開き、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に得ていた情報を元に本人に合わせた声掛けを行うことで、困っている事や不安、要望を聞き出し把握している。またそれらを解消し安心できるよう支援して行く中で、信頼できる馴染みの関係を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と積極的に会話をを行い、いつでも連絡が取り合えるようにすることで信頼感を持ってもらい、遠慮なく不安や要望を相談できる関係を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関から提供された情報や、本人・家族からの聞き取りにより、現在必要としている支援を見極めている。また、ケアマネ・看護師・医療とも連携し、他のサービスも含めた対応を行うよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常の業務の中で、食事・談話・テレビ視聴・リハビリ作業・レク活動等を可能な限り利用者と一緒にを行い、一人ひとりの生活に寄り添った関係を作る様にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に関する情報をこまめに家族に報告し、現在の状態を理解・共有してもらう事で、家族と共に本人を支えていく関係を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望があれば、職員・家族が同行して行きたい場所に行ける体制を整えている。また、連絡したい人に施設の電話を使って話をしたり、面会に来られた方にいつでも会って話ができる様にしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や本人の性格を把握し、トラブルにならないように配慮しながら、会話ができる様な場面のセッティングや仲介、声掛けを行い、各自が孤立せず関わり合えるような関係作りに努めている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係性を大切に、施設外で会った際には積極的に声掛けして現在の状況等を確認し、困った事があればいつでも相談するよう伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の様子や会話の中から、各利用者の暮らし方の希望や意向を感じ取り、モニタリングにて職員全員で検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活状況を等載せた利用者詳細情報を、利用者一人ひとりの介護経過記録の一頁目に綴じ、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の過ごし方や行動、訴え等を細かに記録し情報共有すると共に、介護計画の作成時や状態変化があった時にはアセスメントを作成し、常に現状を把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意向を把握し、主治医・看護師・ケアマネ等の関係者や職員間でよく話し合ったうえで、その意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成するよう努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子や介護計画の実施状況を記録し情報共有すると共に、毎月のモニタリングで話し合いを行って、その結果をケアの実施や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化に応じて、今必要とするサービスを職員間で話し合っって検討し、関係機関とも連携しながら、各利用者に適した柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がそれまで利用していた店や施設、病院等を把握し、可能な限りそれらを継続して利用できるよう支援しながら今の生活を楽しめるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院を主治医とし、必要時は受診している。また病院と良好な関係を築くことで、往診により利用者の負担を減らしたり、異常時に報告相談して適切に医療が受けられるようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の観察や関わりの中で異常が認められた場合は、すぐに看護師に報告・相談し、適切な医療ケアや受診の指示等をしてもらい、病気の早期発見・対応が出来る様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、定期的に電話したり病院を訪問したりして病院関係者との関係作りを行うほか、情報交換や相談を行っている。退院時期も病院と情報をやり取りしながら決定し、施設でも継続してケアを行い早期に退院出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、入所の契約の際に説明を行うほか、状態が悪化した際には早い段階で本人や家族と話し合っって意向を把握し、施設で出来る事を説明・理解してもらったうえで方針を決定し、医療と連携しながら支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体研修会議で看護師が定期的に、急変や事故発生時の応急手当や初期対応の講習を行い、全職員が必要な知識や技術を身につけられるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導のもとで、火災・消火訓練や避難訓練を行い、全職員が消火活動や避難誘導が出来る様にしている。また町内のハザードマップや避難施設を掲示し、起こりうる自然災害に備えている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言葉を否定せず、常に相手の気持ちを尊重し言葉を選び対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の日常生活でふれ合いや談話を行って行く中で、利用者が思いや希望を言い易い関係を築き、何かする際には様々な選択肢を示しながら、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の体調や精神状態を把握して、その日の過ごし方を検討したうえで、本人の希望を取り入れながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔や整髪、定期的な散髪、食べこぼし等で汚れた衣類の更衣など常に整容には注意し、御家族が来所時に不愉快な思いをされたり、本人が恥ずかしい思いをしない様、支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きや食器の準備を手伝って貰い、食事中は会話をしながら職員も一緒に食べることで、家庭的な雰囲気を感じられる様にしている。食後は食事の感想を聞きながら、下膳や食器後片付けを一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎食チェックを行い把握している。塩分制限のある方には減塩食を提供、水分制限のある方は、一日の摂取量の表を作り、毎日記録して管理している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、本人の出来ないところは磨き直しをする等して支援している。必要な方は歯科医院に往診してもらい、定期的な口腔メンテナンスを受けたり、口腔ケア方法の指導をもらっている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄の時間を表に記録、排泄のパターンを把握し、本人に合わせたトイレ誘導を行うことで、尿意や便意の無い方も出来るだけ、トイレにて排泄が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供や、腹部マッサージ、適度な運動の実施を行うほか、必要時には主治医に相談し下剤を処方してもらい様子を見ながら調整を行う事で、本人に負担なく排便がコントロールできるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日により入浴日が決まっているが、体調不良や入浴拒否があった際には、心身状態の良い日に変更、調整し、本人が負担や不満を感じず入浴できるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に、日中は出来るだけ活動しを促し夜間の安眠を図っている。それだけでは不眠が見られる場合には、主治医に相談し睡眠薬の処方を受ける等の支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は個人ファイルに綴じ、常に確認している。処方変更時は記録や申し送りを徹底し、全職員が把握できるよう努めている。また症状の些細な変化にも注意し、適時主治医へ相談し指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族への聞き取りから趣味・嗜好を把握し、好きな事が出来るよう支援するほか、本人の能力に合わせて職員と一緒に生活リハビリを行っている。好天時には、散歩や買い物に同行し、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って買い物や散歩、行きつけの美容室等に同行し、外出支援している。普段行けないような場所についても、家族の希望や協力があれば、職員が支援して出かけられる様な体制をとっている		

グループホームあそ和楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力を考慮し、管理可能な利用者には規定額内でお金を所持してもらっている。管理不可能な利用者には、職員が同行して買い物に行き支払いを代行する等、本人の希望に応じて使える様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、施設の電話にて電話してもらっている。難聴の利用者の会話の代弁や、手紙の取り次ぎ・投函の代行等の支援もおこなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は動線を考慮して家具や物を配置し、安全に過ごせるようにしているほか、照明や空調は職員が管理し、過ごしやすい環境を保っている。壁には利用者と共に作成した季節に合わせた作品を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方や馴染みの方と交流できる様に食卓の席を配置し、ホールや玄関には誰でも自由に利用できるソファや椅子を置いて、思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の希望に沿って、使い慣れた物や好みの物を持ち込んでもらっている。家具の配置は本人と相談しながら、安全・快適に過ごせるよう工夫し、居心地良く過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで通路やトイレには手すりを設置しており、職員の見守りのもと、出来るだけ自分の力で安全に自由な行動が出来る様にしている		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 あそ和楽

作成日 令和2年 4月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	入所者の一番の楽しみである食事について要望や意見を聞く取組を行う	料理の中に季節感をとりいれて、楽しい雰囲気のある食事を提供する	入所者の少人数の集まりなどに参加して何が食べたいかリクエストを聞きながら反映していく	2ヶ月
2	54	居室作りの工夫に努める	使い慣れた生活用品を持ち込むことで、自分の家と変わりなく過ごすことができるようにする	入所時に家族の方に説明をして、思い出の品など使いなれた物を持ってきてもらう	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。